

キャラクター名
木原 アルバ

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ブラックドッグ		ワークス	研究者	カヴァー	研究者
	オプション		年齢	24	性別	男
覚醒	命令	衝動	解放	初期侵食率	37 %	
出自	義理の両親 17	経験	UGN 秘密 27	邂逅	同僚	ラフレシア

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	0	0			2	行動値	8
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	8
精神	4	1	1			6	戦闘移動	13
社会	1	0	0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志		1	調達	1	
運転:			芸術:			知識:	4		情報:	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アームブレード	白兵	6r-1	3	9		イニシアチブにオートで装備。ガード-5
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アーマースキン		4	-	-	HPダメージ-1D点できるがシーン1回まで

所持品	
アームブレード	
アーマースキン	
コネ:研究者	
思い出の一品(眼鏡)	

合計装甲: 4 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
義理の両親	P 尊敬	N 恥辱		
霧谷	P 憧憬	N 敵愾心		
姫宮	P 尽力	N 嫌気		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ノイマン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: <白兵>を【精神】で判定。								
マルチウェポン	5	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 二つの武器の攻撃力を合計								
ハードワイヤード	5	-	常時	至近	自身	自動成功	-	
効果: 5個、ブラックドッグ専用アイテムを常備化する。								
ヴァリアブルウェポン	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: LV個の武器の攻撃力を+する。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

UGNに所属する研究員兼戦闘エージェント。
 脳以外の身体のうちを機械化しており、代替技術の見本市状態となっている。
 闘う際はノイマンの思考力の高さと機械の身体を完璧に制御することで、機械の体に収納されている最高4本の剣を同時使用する。
 見た目は普通の細身の人間にしか見えない。戦闘時には体の一部が機械に変形し、露出する。
 研究熱心で、レネゲイド、特にレネゲイドビーイングを中心に研究をしている。
 マイペースな性格で、人をおちよくなるような物言いをするが、特に悪意があるわけではなく、研究ばかりで人付き合いが少ない故の弊害である。
 予想外の面白い自体に遭遇すると我を忘れて没頭してしまう。そのせいで何度も実験中に事故に遭っており、ますます身体の機械化が進むことになった。

実の父親はFHの研究員だった。
 父親の命令により、幼少期にノイマンのシンドロームを持つオーヴァードになった。それはFHの構成員にするためだったのか、それとも父親の研究のためだったのかは分からない。(「秘密」はこのあたりかもかもしれません。特に決めてないので自由にGMが決めて良いです。)
 その後すぐにUGNにより父親のいたFHの研究が強制され、保護されたからだ。
 父は彼を見捨てた。その後はUGN内のある女性研究者の希望により、その研究員の養子になることになった。
 「木原」は義理の母の姓。「アルバ」は実の父が呼んだ名前である。実の父の姓と名前は知らない。ただ「父さん」と呼んでいるだけだったからだ。

義理の母親の元で、ノイマンとしての天才性を発揮しながら学び、母親と同じくUGNの研究員となる。
 母親が教えてくれたレネゲイドの世界は魅力に溢れたものだったからだ。
 そのままレネゲイドの研究、特に母親がテーマとしていたレネゲイドビーイングの研究に熱中することになる。
 ある時、電気を扱う古代ロボのRBの研究中の暴走に巻き込まれた。
 体の傷箇所を機械化し、さらにブラックドッグのシンドロームに目覚めることになってしまう。
 しかし彼はこれ幸いとさらに自身を実験体として改造し、ノイマンの思考力でブラックドッグの機械の体を制御して闘う力を得た。
 その実地試験をするために戦闘エージェントとしても行動するようになる。